

(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.7-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（75日まで）					
	これ以上改善の見込みはない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=91)	38	7	1	2	28	15
	41.8%	7.7%	1.1%	2.2%	30.8%	16.5%
肺炎 (N=25)	10	6	0	1	7	1
	40.0%	24.0%	0.0%	4.0%	28.0%	4.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者 (N=32)	16	0	0	0	5	11
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	34.4%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD) (N=13)	8	0	0	1	4	0
	61.5%	0.0%	0.0%	7.7%	30.8%	0.0%
その他 (N=21)	4	1	1	0	12	3
	19.0%	4.8%	4.8%	0.0%	57.1%	14.3%

表 6.7-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（76～90日）をもって終了					
	これ以上改善の見込みはない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=25)	4	16	0	0	4	1
	3.0%	11.9%	0.0%	0.0%	3.0%	0.7%